

## 私立大学図書館協会 2026年度第1回東地区部会役員会議事要録

日時：2026年4月17日（金）14：00～15：30

方法：Web 会議（中央大学）

出席校：部会長校 中央大学（三浦、永野、工藤、渡来、西澤）

研究部担当理事校 大正大学（畑中、丸山）

研修・会報担当理事校 大東文化大学（平山）

監事校 明治学院大学（渡辺、鈴木）

陪席：会長校 関西学院大学（服部）

次期部会長校 東洋大学（野口、永島、黒崎）

※敬称略

配付資料：

- ・資料1 2026年度第1回常任幹事会資料
- ・資料2 役員校等選考に関する申し合わせ事項改正（案）
- ・資料3 私立大学図書館協会東地区部会歴代役員校一覧

議事に先立ち、部会長校中央大学図書館三浦館長より挨拶があり、続いて出席者の確認が行われた。議事進行は、部会長校中央大学図書館三浦俊彦館長が担当した。

議事：

[報告事項]

### 1. 東地区部会関係

- ・2025年度東地区部会会務報告(2025年4月～2026年3月)  
部会長校中央大学より、役員会資料（P.3～6）に基づき報告があった。
- ・2025年度東地区部会研究部活動報告(2025年4月～2026年3月)  
研究部担当理事校大正大学より、役員会資料（P.6～9）に基づき報告があった。

### 2. 協会関係

2026年度第1回常任幹事会報告

会長校関西学院大学より、2026年4月10日（金）に開催された第1回常任幹事会について、報告事項、協議事項ともに資料1で確認いただきたい旨の説明があった。また懇談事項において会報の電子化について、東地区部会役員校の意見を伺いたいとのことであった。

[協議事項]

1. 2025年度東地区部会事業報告

部会長校中央大学より、役員会資料（P. 10-11）に基づき事業報告があり、提案のとおり承認された。

2. 2025年度東地区部会決算報告および監査報告

部会長校中央大学より、役員会資料（P. 12）に基づき決算報告があった。既に監事校明治学院大学による監査は完了しているとの説明があり、提案のとおり承認された。

3. 2025年度東地区部会研究部決算報告および監査報告

研究部担当理事校大正大学より、役員会資料（P. 13）に基づき決算報告があった。既に監事校明治学院大学による監査は完了しているとの説明があり、提案のとおり承認された。

4. 2026年度東地区部会事業計画（案）および予算（案）

部会長校中央大学より、役員会資料（P. 14-15）に基づき説明があり、提案のとおり事業計画（案）、予算（案）ともに承認された。なお、予算（案）は、総会での協議・承認を得る必要があるが、それまでの間は暫定的に執行する旨の説明があった。

【事業計画（案）】

<行事・会議予定>

・館長会における講演と研究部における研究講演会について、今年度は同日の午前・午後開催予定。

【予算（案）】

<収入の部>

・協会交付金：2025年度加盟校数267校分を計上。

<支出の部>

・役員校活動費交付金：内規に基づき、八戸工業大学、大正大学、大東文化大学の3校分を計上。

・運営事務費：Zoomライセンス継続契約に伴い、年額料金相当分を含めて計上。

・管理職研修：2026年度（隔年開催）の実施に伴い計上。

・研究部交付金：研究部事業予算額（雑収入1000円を除く）から前年度繰越金を差し引いた3,269,011円を計上。

5. 2026年度東地区部会研究部活動計画（案）および予算（案）

研究部担当理事校大正大学より、役員会資料（P. 16-17）に基づき説明があり、提案のとおり活動計画（案）、予算（案）ともに承認された。

### 【活動計画（案）】

- ・スキルアップ研修について、和漢古典籍、電子リソース、利用者サービスの3コースに表記を変更した。
- ・オンデマンド研修について、2026年度は「雑誌コース」を実施する。

### 【予算（案）】

#### <収入の部>

- ・2026年度は、研修事業の参加費徴収の予定はないため「研究会参加費収入」の科目を削除した。

#### <支出の部>

- ・スキルアップ研修の研修事業委託費を、2026年度は和漢古典籍、電子リソース、利用者サービスの各コースに振り分けて計上した。

## 6. 2026年度東地区部会総会・館長会・研究講演会の開催（案）

部会長校中央大学および研究部担当理事校大正大学より、役員会資料（P.18）に基づき以下の説明があり、承認された。

- ・総会は、e-mail と Web 入力フォームを活用した個別回答形式により、昨年よりも1週間期間を延長して開催。
- ・開催日程：館長会での講演と研究部主催の研究講演会は同日に開催。
- ・館長会：講師に県立長野図書館長の森いづみ氏、ゲストスピーカーに信州大学教授の渡邊匡一先生をお招きして、「図書館長に大学図書館職員として知ってほしいこと・期待していること～研究支援・教育支援・地域貢献の機能を発揮するために～」のテーマで開催予定。
- ・研究講演会：大まかなテーマについては決まっているが、講師について調整中。

## 7. 役員校等選考に関する申し合わせ事項の改正

部会長校中央大学より、資料2に基づき東地区部会における役員校等選考に関する申し合わせ事項について、下記の2点の改正と追記した箇所についての説明があり、提案のとおり承認された。

- ・改正の1点目は、資料P.2 の3. 選考対象一覧<協会役員校>理事校地区ブロック選出において、図書館専任職員が3名以上いる大学を選考するの「3名」を、昨今の図書館専任職員数減少の運営体制を鑑み「1名」に改正する。
- ・改正の2点目は、資料P.4の<協会委員会>国際図書館協力委員会の委員選出において、2025年度に検討するとなっていた案件を3大学（明治大学を通じて立教大学・法政大学に確認済み）で調整していただいた内容に基づき、「2030年度までは3大学のローテーションで第2枠を担当し、新規の大学を追加しない」の一文を追加する。
- ・日本図書館協会代議員の任期4年を、役員校の任期にあわせて2年に見直す要望を、日本

図書館協会に伝えている点について追記した。

なお役員校等選考に関する申し合わせ事項については、役員会終了後の次期役員校選考委員会においても、再度確認する。

## 8. その他

特になし。

### [懇談事項]

#### 1. 東地区部会役員校、総会当番校の選出について

部会長校中央大学より、資料3に基づき、2029年度および2030年度の役員校等について報告があった。なお2031年度以降については、2033年度および2034年度部会長校に、明治大学を予定しているのみで進捗していない状況である。

#### 2. その他

会長校関西学院大学より、会報の電子化による会報業務の負担軽減を望む声が複数あり、今期中に何らかの方向性を次期役員校に示したく東地区部会の役員校からも意見を伺いたい旨の経緯説明があった。各校からは、以下のとおり、意見、検討課題が出された。

- ・今後会報を長く維持していけるのであれば、電子化の方が閲覧しやすい。また電子化によって、コスト、手間が省略化できるので、前向きに検討していただくことは賛成である。
- ・会報は手作り感が強く、原稿をページイメージにまとめWORDで作成するのは大変であることから、業者に細かなチェック、体裁を整えるところを任せたい。電子化するとなると別に考えなければならないことがあり、省力化することと電子化するというのが完璧にイコールではないかもしれないので、目的を考えながら検討する方がよい。
- ・会報の電子化によって、容易に更新がかけられ協会ホームページにアップできるのは大きなメリットになる。
- ・CiNii Researchで記事検索が可能であるが、協会ホームページに会報のPDFを掲載するだけの省力化では検索サービスに収録されないことになるので、もっと相応しい会報の電子化を検討する中で見出せるかもしれない。

なお会長校関西学院大学から、今年度中は通常どおり会報を冊子として発行する方向との説明があった。

以 上